

会議の名称	令和5年度第2回茅野市総合計画審議会		
開催日時	令和5年5月24日(水) 18時30分～20時30分		
開催場所	茅野市役所 議会棟大会議室		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	<p>○議事</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 市長挨拶</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 第6次総合計画構想骨子について 資料</p> <p>(2) その他</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p> <p>○議事録</p> <p>1 開会</p>		
会長	<p>2 会長挨拶</p> <p>本日は本年度第2回の総合計画審議会ということでお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>5月8日にコロナが5類に移行し、まちの雰囲気も少し変わったような感じがしている。5月の連休も多くの人が外出し、飲食店にも久しぶりに長い行列が見られた。また最近まちで「のらざあ」をよく見かけるようになった。</p> <p>私たちは3年にわたるコロナ禍を経験し、その中で感じたこと、そして、これからの変化について、本日検討いただく基本構想に盛り込んでいきたいと考えている。本日は総合計画の骨子についてご提案をさせていただくので、忌憚のないご意見をいただくようお願いしたい。</p> <p>なお、本日の会議でご意見等をいただき、引き続き、パブリックコメントを実施する予定である。</p>		
市長	<p>3 市長挨拶</p> <p>お忙しい中、お集まりをいただき、ありがとうございます。2期目に入り初めての総合計画審議会だが、皆様方には改めてお世話になる。よろしくお願いしたい。</p> <p>この総合計画審議会では、これまで約1年半にわたって議論いただき、今日骨子を検討いただくところまできたと認識している。1期目では、総合戦略を策定し、「若者に選ばれるまち」を掲げてまちづくりのスタートを切ったが、同じ時期にコロナ禍が始まり、なかなか思うようにまちづくりを進めることができなかったが、そうした中でも、いくつかの種を蒔けたと思っている。そうしたものをしっかりと活かしながら、より発展をさせていくというのがこの総合計画ということになるので、本日、骨子に対してご意見等を</p>		

	<p>いただければありがたいと思っている。</p> <p>いずれにしても、この第6次総合計画は私にとって2期目の大きな指針となる。私自身、今まさに大きな転換点になっているとの認識のもと、1期目の4年間の中で、市民の皆様方からいろんなお話を聞く中で、今までのやり方が通用しなくなっていると思う部分が多々出てきている。また、市役所であったり、茅野市のまちづくりそのものが制度疲労を起こしてきているとも感じる。</p> <p>これからの10年、20年をどう乗り切っていくかということを考えた時に、今の30代、40代ぐらいの方々、すわまち、10年後、20年後の茅野市を背負っていってくれる方々の意見というものをしっかりと取り入れていくこともすごく重要だと感じている。</p> <p>本日は、皆様方から、いろんなご意見等をいただければありがたいと思っている。よろしく願いたい。</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 第6次総合計画構想骨子について 資料 =事務局が項目を区切って説明し、都度質疑応答=</p>
事務局	
会長	<p>本日皆様には、第6次茅野市総合計画の構想骨子について、協議いただきたい。目次について、与件の整理は青、基本構想は赤という見出しになっている。与件の整理については、今まで審議会ですべてのご意見いただいた部分になるが、改めて事務局から説明いただき、その中でお気づきの点について、ご意見等をいただきたい。</p>
事務局	<p>【与件の整理（1ページ～6ページ）を説明】</p>
会長	<p>少し概観したい。まず、1ページに茅野市の強みを挙げていただいている。2ページと3ページは、今までお話したことがあるピンチをチャンスにとという部分になる。4ページは、茅野市が直面している問題、弱みの部分。そして、それを前提として5ページ、6ページの茅野市の課題を挙げていただいている。こうした流れで、与件の整理ができていると思う。</p> <p>与件の整理の全体を通じて、ご意見等があれば、お出しいただきたい。</p>
委員	<p>全体としては、茅野市ならではの、というようなものはあまりなく、どこの自治体も抱えている課題が同じように取り上げられている印象だが、そうではない部分もあるのは確かかなと思う。個人的には危機感に乏しい感じがする。そこが少し気になるころではある。</p> <p>5ページの「公民協働のまちづくりの転換」に、「多様な人のまちづくりへの参画」とあるが、現在はあまり多様な人の参画がないという理解なのかなと気になった。また、「共助の仕組みへの転換」とあるが、公民協働のまちづくりと共助の仕組みというのは必ずしもイコールではないので、「協働の仕組み」とした方が良かったと思う。</p>
事務局	<p>パートナーシップのまちづくりの捉え方で、我々がかなり型にはめてしまったところがある。そもそも福祉、環境、教育などの分野別であったり、地区コミュニティであったり、そういった単位で様々な活動が進められてきた現状があり、そういう括りにとらわれずに、様々な方にもっと関わって</p>

	<p>いただきたい、そういった考え方がある。表現は検討させていただく。</p> <p>自助、共助、公助というのは昔からの区分けでもあるので、そういったところも含めると、単純に共助という話ではないと思う。おっしゃる通り、協働とした方がわかりやすいと感じた。</p>
委員	<p>4 ページに財政の硬直化とあるが、硬直化ではなく脆弱化の方が適切ではないか。また、コロナ禍で人流が妨げられて観光業や飲食業に打撃があったとあるが、コロナの扱いが5類になった5月8日以降、ニュースやテレビを見ていると人の流れは戻っていて、羽田も人で溢れていた。したがって、ここは予見から外した方が良いと思う。</p> <p>また、これから計画を策定していく中で普遍性は大事だと感じているが、茅野市ならではの独自性、これも柱にないといけない。普遍性と独自性は同時に両立していないといけない。そういう点から見ると、独自性について少し弱いと感じる。とりわけ、縄文とSDGsの関係性について、もう少ししっかり書き込むか、別の枠を設けるなどを考えた方が良い気がする。</p>
事務局	<p>まず、与件の整理の内容について、なかなか変えられないところではあるが、ここは、5次総を6次総に切り換えてきた、そのスタートを規定する部分、その根幹になる部分ということで載せていきたいと考えている。</p> <p>市の財政については、現状を捉えて硬直化なのか脆弱なのか、表現を検討させていただく。</p>
事務局	<p>人流が復活してきていることは認識しているが、コロナ禍は地域経済に相当大きな打撃を与えているので、そこから復活していくことは今後の課題になると思うので、そうした内容は入れ込んでいきたい。</p>
委員	<p>4 ページ真ん中、地域経済の縮小の1 ポツ目に株価低迷とあるが、株価は常に変動しており、今、33年ぶりに高くなっているので、この表現は適当なのか。</p>
事務局	<p>その部分も認識している。半年前ぐらいの情報に手を入れている状態。今度精度を高めていきたい。</p>
委員	<p>普遍、個別、特殊という形での茅野市への絞り込みについて、議論があったが、各委員のおっしゃるように、その辺がもう少ししっかりできたらいいという点と、縄文文化と精神性の最後のところで、現在においても茅野市のまちづくりに継承され、SDGsの達成にも貢献していると書かれているが、縄文の文化と精神性について、この場ではこれまでに議論しているから共通認識されているが、一般の人にはわかりやすく説明した方がいと思う。</p>
事務局	<p>【これからのまちづくりの考え方（7、8 ページ）を説明】</p>
会長	<p>今までいろいろご意見等をいただいている部分でもあるが、お気づきの点等があれば、お出しいただきたい。</p>
委員	<p>このような見え方はわかりやすく、従来から良いと思っていた。DX、</p>

	<p>アナログの再構築の部分で、よく出てきた効率化という言葉が、再構築という言葉になってきているのは良いと思う。一方で、最適化という言葉も最近よく言われるが、再構築した時に、抜けてしまうこととか、作り直すと、その作り直したことが、主になってしまって、アナログでせっかく人が中心だと表現しても、結局人が中心にならないというイメージがある。一番ちょうどいいというような意味で最適化するというような言葉をどこかに少し入れた方がいいと思う。</p> <p>それから、「活力と魅力あふれる稼げるまち」について、前回の会議で計画の中に「稼ぐ」という言葉を入れるかどうかという議論になった。そこでは申し上げなかったが、個人的には少し違和感がある。なぜかというと、基本的にはSDGsの考え方と少しバッティングする概念ではあるため。一方で、現段階としてはこういうものを通過しながら、社会の、それこそ、DXで言えばトランスフォーメーションのところ、社会構造自体が変わっていく中で「稼ぐ」ということの優先順位というのは恐らく下がってくる可能性もある。人が少なくなり、助け合ったりすることが中心になってくると、生活を成り立たせるために「稼ぐ」ということが、必ずしも生活の中心でなくなるという社会構造の変化が起こっている。そうすると、この文言自体がここにあるのが、どこかで違和感が出てくる時期がくるような気がしている。今回はこれがあるということで、いつか「時代が変わったよね」というタイミングが、SDGsともっとマッチングした形で出てくるかもしれないと現段階では思っている。ここが通過ポイントかなと捉えている。</p>
会長	<p>効率化と最適化という言い方については、後の項目でも出てくるので、その時に検討させていただきたい。「稼ぐ」という表現もこれまで検討してきた経緯もあるが、事務局で再考いただければと思う。</p>
委員	<p>半円形の図の一番下にSDGsカッコ縄文と書いてあるが、SDGs＝縄文ではないので、この書き方はどうかと思う。茅野市の独自性を出すのであれば、SDGsだけではなく、その次に見えてくる。和製英語のリボンとかリジェネシスのようなものを踏まえたSDGs、もうSDGsではない時期に来ているということ。縄文という文字のない時代の考え方を、どうやって市の大きな計画の根幹に据えて、独自性を発揮させるのか、より具体的なその方法について少し検討しておきたいなと思っている。この場ではないと思うが、縄文の人たちが何を考えていたのか、何をしていたのか、その精神性について、しっかり専門家を交えて議論していくことが、今後必要になると思う。</p>
会長	<p>縄文についてはいろいろご意見をいただいていることもあるので、事務局で再考をお願いしたい。</p>
事務局	<p>【目的、目標1、目標2（9ページ～17ページ）を説明】</p>
委員	<p>毎回出席できているわけではないので、すでに議論済みなら申し訳ないが、10ページで、市民一人ひとりが身体的、精神的、社会的に良好な状態になることで得られる幸福感、というフレーズがあり、この部分は有名なWHOの健康の定義だと思うが、これをあっさり言ってしまうと。身体や精神に障害のある方とか、社会と交流がなかなか持てない方はウェルビーイング</p>

グを達成できないのかという話になり得る。そもそもこの定義自体もいろいろな意見がある。また、12ページで、誰かが決めた基準ではない、とあるのに、ここに誰かが決めた基準を採用していることも矛盾する気がしている。何らかの障害があっても、生活の困難があっても、茅野市で生活していくことで幸せを感じるからここで生きていきたい、というようなまちを目指すのであれば、元気な人しかウェルビーイングを達成できないと誤解されるのはいけない。議論があった上でここに載っているのかどうかかわらないが、非常に違和感がある。

また、17ページについて、以前から違和感あったが「心豊かに学び育み活躍できるまち」という部分で、「学び」はわかるが「育み」というのは何を育むのかわからなかった。子どもを産み育てる意味の「育む」なのか、その下を読むと、心豊かな学びを通じて生きる力を育みながら、とあるので、学ぶことで生きる力を育むということになるとイメージが違うなと思った。13ページのやさしさのところを見ると、安心して子どもを産み育てることができる環境ということにしっかり触れられているので、子どもを育てるのと、自分の生きる力を育むってのがごっちゃになっているような感じがする。議論してこうなったのならいいが、触れられていなかったら検討をお願いしたい。

ウェルビーイングはとても大事なところ。ウェルビーイングを茅野市はどう考えるのかということは、きちんと伝えないといけないので、WHOの定義を取り上げることに反対であり、できれば省いていただくか、違う言い方、違う言い回しをしていただいた方がいいと思う。そういう意味で言うと、12ページにあるように、個人個人の価値観で幸せを測っていくということや、何かしら普遍的な尺度があるわけではないという考え方には共感できるので、その部分を少し整理していただけるといいと思う。

今後、安心して子どもを育てることが、実際どういうことなのか、具体的な施策の検討の中で出てくると思う。今、こども家庭庁という、国の組織ができて、これから少子高齢化に対してどういうことをしていくのが国全体でも議論されていく中、茅野市ではどういうことをしていくのか、茅野市らしい独自のものを考えていくにあたり、ここはとても大事。安心して子ども産んで育てるってどういうこと、どういう社会、どういう地域、どういう茅野市ということを考えるのがとても大事だと思っている。

事務局

10ページについて、委員おっしゃる通り、身体的、精神的、社会的の3つが好条件になった時がウェルビーイングであるというところは確かに言い過ぎた部分であり、基本的に理想の話であると思う。この部分は、例えば、市民一人ひとりの後にあるカギカッコの中を削除し、「市民一人ひとりの幸福感を向上し」とし、11ページ、12ページの内容を再構築して流れをつくりたいと考えている。

17ページの「心豊かに学び育み活躍できるまち」については、下のカテゴリに子育て・教育とあるため、その色合いが強く感じられるが、当初は、いわゆる生涯学習という視点から、大人も子どもも地域または社会の中で、学び、育んでいくことをイメージしていたところ。ただ、センテンスとして見た時に、確かにわかりにくさはあるので、もし何かご提案をいただければ修正したいと思う。

委員

「心豊かに学び育ち活躍できるまち」でいいと思う。何歳になっても学び続

委員	<p>ける、人間として成長する、子どもにとっても、学びの自由と、そのことで成長していけるという、両方を入れることができる。</p> <p>市外の人視点からということでお話しさせていただきたい。3月末頃に香川県の直島と兵庫県の豊岡に行った。豊岡は人口減少が減ったまちで、そのポイントは、公立大学でも珍しい芸術文化観光専門職大学を作ったことと聞いた。そしてもう一つは瀬戸内海の直島だが、ここは、もっとすごくて子どもが増えている。そこはアートの島になっていて、アイデンティティの獲得と経済的な豊かさを元に、島の人もやさしい方が多く、アートのこともよく理解している。こうした環境が、子どもを安心して産み育てたいという気持ちにつながっていく可能性があると感じた。</p> <p>また、直島にはフェリーで渡るが、9割が外国の方で、私たち日本人がいても少数派であるなど、その多様性と、日本の中で、私たち日本人の方が少数だというような場所があったということにびっくりした。このように何か一つキーワード、特徴があることが大事だと感じた。</p> <p>先ほどから何度も茅野市の独自性という部分で、縄文が出てきているが、前回の会議でもあったが、文字のない時代に、縄文のスピリチュアルな精神、この精神が根づいていると言っても本当の縄文の精神がなかなかわからないのに、それを基礎の基礎にしているのかというご議論もあったと思う。詳しくはないが、尖石縄文考古館で、学芸員の方から聞いたお話しの中に、黒曜石の分布はエビデンスで認められているということ。東北、北海道のあたりでも、ここの黒曜石が出ている、つまり、縄文の時代からここは交流が盛んな地であったということはエビデンスがあることとして語っているのかなと思った。</p> <p>そして、今、直島とか豊岡のお話しをしたが、多様性というと、本当に外国の方だけではなく、LGBTの方とか、さっきから出ている1人も取り残さないというSDGsのモットーでいけば、いろんな困難を抱えている人も含まれるだろうし、こうした多様性が目に見える形で出てきて、市民一人ひとりがこのことを我がことのように捉えるには、様々な人が、ここに行って話したいと思うような場所を作っていくのがいいと思った。</p>
委員	<p>お話しを伺いながら、確かにそうだなと思ったところが非常に多かったが、特にウェルビーイングについては、おっしゃる通りだなというところがあって、私もすごく考えていたのは、目的のところによく出てくるのは「市民一人ひとり」という言葉であり、これを主体にしようという意思はすごくいいと思っている。常々私もDXの協議会などでも言っているが、今までの行政というのは全体に対して施すようにいろいろなことをしていた部分があると思うが、もう少しいろいろな人々、1人の個人を主体にして考えていく方法っていうのもあるんじゃないかと思っている。したがって、その意味では非常にいい表現だと思う。</p> <p>一方で、主体性がそこにあるように見えてしまうと、行政でもあるわけなので、ここで語れる言葉の主体がやっぱりある程度行政の部分も感じさせないとちょっと難しくなってくる。それはふわっとした何か共同体の概念みたいになってしまうところがあるので、何が足りないのかなと思った時に、11ページの最後の方で、「目標の達成に向けて、市民の皆さんが日々の暮らしの中で得られる幸福感を把握し、取り組みを評価しながらまちづくりを進めていきます」とあるが、把握して評価するだけじゃなくて、一番</p>

	<p>大事なのは、その多様な人々、それぞれの形を持った人々が守られていることが大事なんじゃないかなと思った。つまり、人権である。人権とか尊厳っていうものについてあんまり触れられていないっていうことが少し気になったので、主体性としての行政っていうのは、もう少しそういうところにあって、実際の作業とか、まちをつくっていくということは市民との協働によって当然成り立っていることだが、憲法の原則に従うと、やっぱり主権が市民にあって、平和であるということと、基本的人権ということがあるので、やっぱりその精神が基本的に横溢しているという状態でなければいけないのではないかなと思った。</p>
会長	<p>事務局の方で取組を評価した後の部分も検討していただきたいと思う。</p>
事務局	<p>【まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観（18ページ～23ページを説明）】</p>
会長	<p>8ページのまちづくりのイメージの地球儀みたいな形の下の部分について説明いただきたいが、ご意見等があれば、お出しいただきたい。</p>
委員	<p>19ページの行財政改革について、2番目のパートナーシップのまちづくりの最後に、「市民との対話を十分に行いながら、新しい時代に対応した形へ見直します」とあり、次の項目の最後にも、公共施設や行政サービス等のあり方を見直します、という書き方をしている。この「見直します」とあるのは、どうやって見直すのかなと思う。単に「見直します」では、何を見直すのかわからないし、見直しによって生まれてくるものが見えないと思う。20ページのDXでは再構築という言葉を使っているので、同様に新しい形にするということで、「再構築する」としたらどうか。「見直します」という言葉には少し否定的な内容も含まれていると思う。</p>
事務局	<p>行財政改革においては、市民の皆さんと真剣にお話しをする中では、見直しという言葉が出てくるので、あまり意識せずに使ってきたところもある。ご意見を踏まえ、再構築なのか、もう少し前向きな言葉があるのか、など、少し考え方を変えていければと思う。</p>
委員	<p>同じ行財政改革について、「行政内部の仕事のやり方を見直します」とあり、その次に、「見直しの推進にあたってはデジタル技術の積極的に活用します」とあるが、これは少子高齢化に伴って労働人口が減少することにより、人手が不足するため、見直しをしなければならないということであると思う。今あらゆる企業でも生産性向上という言葉が普通に使われているため、ここは明確に、それを謳った方がいいと思う。文末を「デジタル技術を積極的に活用し、生産性向上を目指します」などと、はっきりと明確に謳った方がよいと思う。</p>
会長	<p>何のためにやるんだ、というところをはっきり出してもらいたいということだと思う。事務局で検討して欲しい。</p>
委員	<p>先ほどから指摘されているが、23ページの縄文のところは、やはりちょっと違和感がある。SDGs＝縄文というところと、そこに書かれている内</p>

	<p>容で、何千年もの間、茅野市の人たちがそれを受け継いできて、冒険心などが今の我々に引き継がれているとあるが、本当にそうなのか。縄文は茅野市のオリジナリティではあるので、そこを何とか持っていきたいという気持ちはわかる。</p> <p>一方で、最初の茅野市の強みの、縄文の文化と精神のところで、縄文の時代に、この地域が最も人口が集中し交易の中心であったとする歴史と、二体の国宝土偶が出土した事実とあるが、この部分はものすごく大きいこと。歩いていたら黒曜石があったり、近くに史跡があって見てみたり、縄文学習を学校でやっていたり、ここにそういった事実があるからこそ、縄文の文化にみんなが興味を持ち、縄文人はどういった生活をしていたのか、どんな精神性を持っていたのかなどの興味を持ったり、好奇心を持ったりする。それが、ここにいる強みだと感じた。そういうところも少しアピールした方がいいと思う。</p> <p>10ページのウェルビーイングについて、「あらゆる人の幸福感を向上し、それにより最大化された人の心の豊かさが社会や地域の課題解決への意識と行動を喚起し」とあり、先に幸福感を上げないと、地域への関心が伴わないような書き方になっている。どちらが先かという、幸福感を味わうために、人との関わりをつないでいき、その中から幸福を感じるということだと思う。12ページの一番下にある、自分の役割がある、とか、誰かの役に立っている、とかそういったところで幸福を感じるということからすると、先にそういうことをしながら幸福感を高めていくというイメージの方がいいと思った。</p> <p>11ページに、「人の幸せが別の誰かの幸せにつながっていくまち、その幸せの連鎖が未来に向かって続いていくまち」とあって、非常にいいフレーズではあるが、どんなことが人の幸せにつながっていくということがイメージできた方がいい。誰かの役に立っているということが幸せにつながり、その人が別の人に幸せを与えるという連鎖の中から、幸せが大きく広がっていくのかなと思った。そういったところが少しイメージできるようになればいいと感じた。</p> <p>23ページの縄文について、これまでの縄文プロジェクト構想の中には、事実の部分と思いを馳せた部分があるので、ご意見を参考に内容を再検討していきたい。</p> <p>10ページのウェルビーイングについては、やはり、かなり現実的なお話しをいただいたと捉えている。ウェルビーイングの考え方は、必ずしも行政が何かを与えた中での幸せというところだけではないので、もう少しストーリーを練り直したいと考えている。</p>
事務局	
会長	<p>縄文もウェルビーイングも議論を深めていく中で具体化してきていると思う。その辺を言葉の中に入れていただくと、より多くの市民の皆さんにも理解いただけるかなと思う。検討いただきたい。</p>
委員	<p>SDGs＝縄文というのはとてもいい考えだと思う。ただ、SDGsカッコ縄文というのは少し違和感があったので、皆さんの意見に賛成である。</p>
会長	<p>この部分は市民感覚として、ちょっとしっくりこないところかもしれない。</p>

<p>委員</p>	<p>21ページの黒ポツ丸の2つ目、八ヶ岳の豊かな森林というところで、森林に関して評価した上で、こう言っていることは非常にいいことだと思うが、今、森林は管理する上で大きな危機に直面しており、森林環境譲与税などの公的なものでかろうじて維持している状態。それと並んで農地が今、非常に厳しい状況にあり、地域計画などにより、しっかりとした管理体制、経営体制を作っている段階にある。したがって、ここの部分は八ヶ岳の豊かな森林・農地という表記にしていただけたらと思う。そして、その下に森林の健全育成とあるが、その後ろに農地管理といった要素を入れ込んでいただけたらと思う。</p> <p>縄文だとかSDGsの議論がされているが、その2つにはつながりがあると感じている。SDGsの前文を読むと、「我々の世界を変革する、持続可能な開発のための2030年目標」という形になっている。持続可能な開発をしていくために、一番大事なのは誰1人取り残さないということと、絶えざる変革をしていかないと、それは不可能であるということを行っている。持続可能な開発というのは、具体的には、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発とされており、それは結果的に縄文文化で実現していたことと言えるのではないかと。</p>
<p>事務局</p>	<p>21ページの森林と農地の部分については、言葉として加えていければ思っている。ご提案いただいたことは、基本計画の具体的な部分につながっていくものと考えている。縄文とSDGsについては、茅野市の強みである縄文の中にSDGsの考え方が含まれていると思うので、こうしたことも踏まえて再検討していく。</p>
<p>委員</p>	<p>20ページのDX、アナログの再構築のところに4つポイントがあるが、最後に、「安心・安全にDXの取組に参加いただけるよう」とあるが、昨今のマイナンバーカードのいろいろなニュースがあり、皆さんにとって、多分一番気になるところだと思う。結局何が問題なのかと言うと、一つには、参加をしてもらうために急いでいろいろなことをやったことによって、アナログの部分が疲弊したりとか、手続きが煩雑になるということ。あとは、個人的な感想で言えば、やっぱり政府の方で大丈夫な状態であるということ、例えば情報をきちんと公開しますとか、その仕組みとか、信頼できるものであるということの打ち出しが足りないと思う。したがって、ここは安全・安心にDXの取組に参加いただける、というようなまとめ方よりは、市民に安心して参加してもらえるためにはどうするか、という書き方をした方がいいと思う。そこが実は1丁目1番地だと思っている。その後にある便利さとかっていうのは、安心できて便利だったらいいよねという順番になると思う。安心かつ信頼のできる仕組みであるとか、手続きっていうのをちゃんと構築するというのと、適切に情報を公開するというのが一つの柱になって欲しいなというところがある。</p> <p>その続きにデジタル機器に不慣れな人を取り残さないように、とあるが、得意な人であっても、インターフェースが変わると取り残されてしまうこともある。「のらぎあ」の講習会で予約の仕方を覚えても、他の仕組みができたりすると途端にできなくなるということ。あれだけ教室などでパソコンを覚えた人がスマートフォンができないという状態があったりするわけで、常にユーザーインターフェースとか、UXとかUIとか言うが、ああい</p>

事務局	<p>うものはどんどん人にちゃんと合わせる、それがアナログのことである。DXは本当はデジタルの中で、アナログ的な考え方をもっと大事にしろということでもある。そういうものを常に人に合わせていく、考えていくってことが、デジタル機器に不慣れな人じゃなくて、デジタルをするときも人に合わせていくってことをもう少しきちんと考えなきゃいけない、それが、このアナログの再構築でもある。これは、トランスフォーメーションにおいて最適化するということになるので、最適化という言葉も文章の中に出てきてもいいと思うし、安全性とか信頼とか、情報をきちんと公開するっていう部分を中心にしながら、それを進めていくというところを全体として伝えた方がいいのではないかなと思う。</p> <p>アナログの捉え方が少し甘かったかなと感じた。おっしゃる通り、不慣れな人を見出すわけではなくて、そもそもデジタルが進化している中でも当然人の手があってこそそのDXであり、そのプロセスが大事だということを認識できた。いずれにしても、現在策定中のDX基本計画と整合を図りながら検討していきたい。</p>
委員	<p>縄文とSDGsが話題になっているが、23ページを書いた方は相当苦しかったと思う。なぜかという、文字のないものを掘り起こさなくてはいけなかったから。先ほどの直島アートについて、茅野市にもアートがある。それは美術ではなく、芸術、すなわち人づくりである。人づくりとは何をすることかという、昔のことを考えて新しくを知ること。したがって、縄文のことを一生懸命やるとなると、新しいことを勉強して、それが何につながっていくのか、ということ真剣に考える、そういう場を設けないといけない。それはもう縄文プロジェクトのセカンドステージが用意されていると思うし、縄文アートカレッジみたいなものを立ち上げてもいいと思うし、いろんな意味で縄文=SDGsではなくて、縄文の中にSDGsが含まれる、縄文の中にアートが含まれるという考え方がいいと思う。半円形の図の中の一番下の基軸になっているので、ここはしっかり踏まえないといけない。</p> <p>それともう1点、ウェルビーイングの12ページに書いてあることについて、ここは先ほど事務局の方が、具体例とおっしゃったんですが、具体例ではなく定義だなと思った。ウェルビーイングがこのように、定義されたり、具体例を示されると、そこから溢れた人は幸せを感じてはいけないのか、と取られてしまう。多様性とか寛容性を標榜する茅野市としては、すべての人を幸福に導いていかななくてはいけない。そう考えると、あえてここにウェルビーイングを3つの丸で定義しては駄目で、ウェルビーイングはもっとほんわかしたイメージで表現すればいいと思う。ウェルビーイングという言葉は難しく、幸せの方が実感として心に残るのだと思うが、ウェルビーイングをどうしても使うとなれば、具体的な定義はしないということが大事かなと思う。</p>
会長	<p>縄文とウェルビーイングというのは、この審議会の重要なテーマなので、貴重なご意見をいただいた。他にご意見等があれば、お出しいただきたい。</p>
委員	<p>縄文について、23ページの4つ目の項目に、縄文文化やその精神性をベースにまちづくりを進めていくとSDGsの達成にもつながる、とある。縄文文化を大事にすることがSDGsの達成にもつながる、その一部になる</p>

	<p>という考え方からすると、表題のSDGsカッコ縄文ではなくて、SDGsを消して、例えば「縄文文化に学ぶ」などのタイトルにすれば整合性はとれると思う。ただ、他の手段のところは体言止めになっているが、「学ぶ」は、体言止めになっていないので、もしそれを採用するなら考えていただく必要があるということだと思う。しかし、本当の意味で縄文文化に学ぶのであれば、縄文時代は多分、コミュニティ全員の共同作業、それによる自給自足と、働きすぎず、必要以上に取らない、そして、それを今に生かすなら、拡大再生産とか再開発はこれ以上しない、そうでないと持続可能な社会にならない、つまりSDGsはとても達成できない。本当の意味でも持続可能な社会というのを目指すのが、縄文文化に学ぶということだと思っているので、個人的意見とは最終的には全く違う、これは価値観になってしまう。これをアソシエーションと言うようだが、アソシエーションを茅野市に実現するというのが最終的な縄文文化から学ぶことだと個人的には思っている。しかしながら、ここでSDGsと関連付けるということなら、そういうタイトルがいいと思った。</p> <p>それからもう一つ、19ページの「見直します」は後退するような気がするので、違う言葉にさせていただきたいと思う。市長さんの発言を聞いていると、公民館を非常に大事にするという考え方でおられることはわかるが、保健福祉サービスセンターとか、10地区のコミュニティセンターとか、そういったものがなくてもいいんだというぐらいの勢いなので、それは例えば、簡略化とか合理化とかっていうことの中で、そういうものまで省いてしまうと、逆にそれは余計人手を要するような仕組みに逆戻りすると考えている。その仕組みがあるからこそ、今公民館活動も行われていると理解していただいて、公民館活動だけを見つめた見直しであったりではなく、今の長年かけて構築してきた、そのスタイルはやっぱり堅持していただくということが大前提なんじゃないかなと思っている。そういう意味でも、「見直し」はやめていただきたい。</p>
委員	<p>17ページの「活力と魅力あふれる稼げるまち」について、市内外の人や企業が茅野市で稼ぐという文章がある、そして、与件の整理の5ページ中段の、ポストコロナ、人口減少対策の推進の2行目に企業を呼び込み、交流を促しながら、ということも書いてあるので、企業を呼ぶのであれば、企業誘致ということも、この下の単語の中に入れてもらえればと思う。</p>
事務局	<p>【まちづくりの3つのポイント（24ページ）を説明】</p>
会長	<p>まちづくりは、行政だけがやればいいのではなく、市民が何ができるのかということと、行政と市民が一緒にやりましょうということにもつながる基本的な考え方と受けとめている。ご意見等があれば、お出しいただきたい。</p> <p>意見等なし</p>
会長	<p>全体を通じて、ご意見等があれば、ここで発言していただきたいが、いかがか。</p> <p>意見等なし</p>

<p>会長</p>	<p>今まで審議会ですいろいろご意見等いただいたものを文章化し、骨子としてまとめていただいた。本日のいろんなご意見等を踏まえて、手直ししていただくようお願いしたい。その他、事務局からお伝えしたいことはあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>4 協議事項 (2) その他 本日はご意見等をたくさんいただき、ありがとうございました。今後、いただいたご意見等を反映したものを事務局で作成し、メールでやり取りさせていただく形になる。その上で、一旦内容を確定させていただき、6月の中旬に議会全員協議会で説明し、パブリックコメントにかけさせていただければと思っている。期間としては6月の中下旬から7月上旬ぐらいの3週間弱ほどを予定している。</p>
<p>事務局</p>	<p>5 その他 来週、知事との県民対話集会在茅野市で開催される。日時は6月1日(木)の午前10時20分から正午まで、会場は市役所の8階大ホールで、テーマは『「若者と女性に選ばれるまち」を目指して』としている。定員は30名程度となっているが、可能な限り入場いただきたいと考えている。お時間とおありでしたら、ご来場いただきたい。</p>
<p>副会長</p>	<p>6 閉会 本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございました。様々なお立場から様々な角度で、大きな課題であったウェルビーイングと縄文、その他諸々のところに、ご意見等をいただき、なるべくわかりやすく、広く、いろいろなことを考えて、ちょっと方向性が難しかったところもあったと思いますが、また定まってきたような気もしており、いい方向に向かうと思っている。 それでは、第2回会議を閉じさせていただく。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>